



ボクの専攻は英語教育。英

語科の教員になりたいので、そのためにはまず英語力が必

要だし、教員になって幅の広い教育をするためには、幅の広い知識と経験が

必要だと思って、ニュージーランドに留学したんです。英語の勉強は日本にいてもできるけど、

日本では受け身の立場を抜け切れな感じていました。それで、英語圏の国で勉強するのももちろん、

英語で話しかけなければならぬ状況、つまり能動的でなければ生きていけないような状況に浸ろうと、だから

ニュージーランドでは生活のすべてを英語にしました。もちろん頭の中で考えることもすべて英語。どうしても日本語が

浮かぶんですけど、ハッと思い直し「英語で!」という感じですね。英語と、英語の意味をわかりやすくするために描いた下

手な絵で埋め尽くされた、その時のノートや単語帳は今でも大切に持っていますよ。滞在期間のうち最初の8カ月は語学学校

で勉強したり、幼稚園や近所の共同農園でボランティアをしたりしてました。学校での勉強が一番上のクラスまで行くと、さらにレ

ベルアップするための選択肢が3つあります。他のコースへ行くか、どこかで働くか、旅に出てニュージーランド社会と深く関わるか、

です。ボクは3つ目を選び「ヒッチハイク」で旅をすることにして、残りの3カ月はニュージーランド中を旅して回りました。旅の道のりは

全部でおおよそ7000キロ。移動日はたいてい1300～400キロくらいを移動するので、その間はヒッチハイクで乗せてくれたドライバーの人

とずっと話をしていて、ここでも英語の力がつきましたね。時には『面白くなかったら降ろす』と言われてたり、話すこともサバイバルでし

た(笑)。能動的になることがしかりと身に付いてきたのはこの頃から。どうしてもやらなきゃならない環境におかれると、人間は「行

くぞ!」という気になれますね。それに、英語が分かってくるとさらに自信がついて、何でもやってみようと思うようになりました。期限

が限られていたから、とにかく食欲にいろいろなことにチャレンジして、山の中で過ごしたり、牛・馬・羊と格闘したりもしましたよ。

来年卒業したら、1年間ニュージーランドに戻るつもりでしたが、少し考えが変わり、将来教師としてやっていくための

知識や経験をさらに広げるために、青年海外協力隊の試験を受けたんです。その結果、ペリーズという中米の

国へ小学校教諭として派遣されることになりました。今度は自分自身が成長するだけでなく、派遣国が今

後発展していけるような協力活動を行っていきなりたいと思います。

将来は日本を引っ張っていけるような子供を育てたいですね。そのためには教える

側も大きくならなくては。ボクは教師のパワーに比例して子供のパワー

も大きくなると考えています。だから、自分をもっともっ

と大きくしたいですね。



海外での経験を活かし、大学を盛り上げていくから、  
後輩のみなさん、海外に出て大きくなって戻って来てください!

浦野圭太 教育学部4年生



留学支援について

留学先 海外の学術交流協定校への派遣 アジア・米国・ヨーロッパが主な派遣先となります。  
協定校の詳細は <http://www.kagawa-u.ac.jp/univ/kouryu/kokusai.htm>を参照してください。

派遣期間 1年以内

選考 所属学部及び派遣先の各大学によって異なります。一般的に成績や留学に対する熱意を考慮して選考されます。

授業料等 協定にもとづいて派遣された場合、派遣先大学の検定料・入学金・授業料は免除されます。

奨学金 「香川大学国際交流基金」という本学独自の基金から「外国へ留学する学生奨助事業」として、1名につき20万円以内の奨学金を給付しています。海外へ派遣される本学学部生、大学院生のみを対象として毎年4～5名が採用されています。

その他に、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「短期留学推進制度(派遣)」という制度があります。この制度は1年以内の短期留学を行う学生に対して、留学期間中月額8万円の奨学金を給付する制度です。毎年ごく少数(1名程度)ですが、本学より派遣する学生からも採用されています。